

ドイツ映画ゼミナール

あんまり知らない？ドイツエンタメ映画の世界

学部生・研究所・課外活動団体が協力

12月11日、ヨーロッパ研究所主催でドイツ映画ゼミナール「あんまり知らない？ドイツエンタメ

映画の世界」が開催され、ローランド・クリック監督の『デッドロック』（1970年制作）

が上映された。また、早稲田大学の荒井泰助教がドイツ映画の歴史などについての講演を行った。

このゼミナールは藤原理子さん（外独4）がヨーロッパ研究所と協力して企画した。藤原さんは昨年9月からドイツの権利元との交渉を開始。メールでのやり取りの結果、日本での初上映の許可を得ることができた。

また、ドイツ語学科のオプヒュルス鹿島ライノルト教授の協力のもと、3カ月間かけて88分の映像全ての台詞を翻訳して字幕を作成。「主人公の声

が低くて聞き取りにくかったのですが、オプヒュルス先生に協力していただき完成させることができました」と話す。当日の運営には、藤原さんが所属する映画研究会のメンバーも協力し、社会人

を中心に約130人が集まり大成功となった。藤原さんは高校時代からドイツ映画に強い興味を持ち、ヨーロッパ映画を専門とするオプヒュルス教授のゼミに参加したいと思い入学。語学力を

磨き3年次には、ドイツ・ベルリン工科大学での1年間の留学も経験した。

なかなか注目を集めにくい外国語映画を多くの人に知ってもらいたいと考え、普段から映画情報サイトのボランティア記者として外国語映画の紹介記事を投稿している。卒業後は映像制作会社への就職が決まり「さまざま

な国で埋もれてしまっている魅力的な作品を探し出し、多くの人々に紹介していきたい」と抱負を語っている。



社会人を中心に130人が参加した



藤原理子さん

藤原さんは高校時代からドイツ映画に強い興味を持ち、ヨーロッパ映画を専門とするオプヒュルス教授のゼミに参加したいと思い入学。語学力を磨き3年次には、ドイツ・ベルリン工科大学での1年間の留学も経験した。

なかなか注目を集めにくい外国語映画を多くの人に知ってもらいたいと考え、普段から映画情報サイトのボランティア記者として外国語映画の紹介記事を投稿している。卒業後は映像制作会社への就職が決まり「さまざま

な国で埋もれてしまっている魅力的な作品を探し出し、多くの人々に紹介していきたい」と抱負を語っている。